



お餅つきの様子

古来、日本人にとってお米は神聖な食べ物とされてきました。そのお米から作られるお餅やお酒はとりわけ霊力が高いといわれているそうです。お正月の間、鏡餅に神様の魂が宿るとされていることから、新年の神様である歳神様をお迎えして「今年一年が幸せでありますように」とお祈りしながら、家族総出で鏡餅を準備していました。今ではお餅も機械でついたり、お店で購入したりして、大勢でお餅つきを行うことも少なくなっているようです。東円寺では毎年12月29日にお餅つきを行っています。東円寺には様々な仏様が祀られていますので、鏡餅だけじゃなく、大・小たくさんのお餅を作ります。お餅は、杵と臼でつきますので、人手もなかなか必要です。今年も小さな子供から大人まで賑やかなお餅つきになりました。

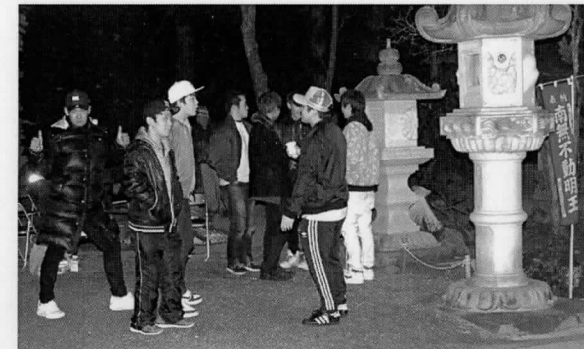
## ～12月31日 大晦日・除夜の鐘～

12月31日、深夜から元旦にかけて除夜の鐘を撞きます。極寒の忍草ですが、毎年鐘を撞きに来てくださる方がいらっしゃいます。お寺では、寒い中来られる方々にあたたかい「おすいとん」と「甘酒」を用意して振舞っています。今年は鐘楼門の耐震化工事を行いました。頑丈になった鐘楼門で行う初めての除夜の鐘です。鐘楼門の中での鐘の音がとても大きく響いていました。その鐘の音と共に一年の煩惱を祓い、新たな年に向けての始まりです。

東円寺の鐘楼門は慶応元年（幕末）に建立されました。その頃の鐘楼門の屋根は茅葺屋根でした。大正時代、亜鉛板に葺き替え、昭和51年現在の銅板葺に替えられました。耐震性に問題があることがわかり、多くの方々の浄財によって今年の8月に耐震化工事を始める事ができました。11月22日には、東円寺法類寺院である東京の成就寺ご住職様を導師にお迎えして、鐘楼門の修復を祝い、落慶法要を執り行わせていただきました。浄財を寄進していただいた皆様には心より感謝申し上げます。



修復された鐘楼門



除夜の鐘に来られた方々